

イクメンを探して

育児する男性はイクメンだけではありません。イクジイの人口も増加中。「子はカスガイ、孫はチョウツガイ」と、孫育てを楽しみ、地域活動に関わるネットワーク委員のイクジイNさんの独白です。

近くに住む二男夫婦に二人目ができ、ママは生まれたばかりの赤ちゃんを手一杯。幼稚園に通うお姉ちゃんの送り迎えをしています。今日も「オジイちゃん行ってきまーす」と元気な声でスクールバスに乗って行きました。

ママにも言えない悩みは

毎朝二男の家に寄り、孫と一緒にバス停まで手を繋いで行きます。帰りの迎えに行ったときもバスを降りると皆に「さようなら、バイバイまた明日ね」と大きな声で手を振っています。時々「今日はオジイちゃんこちらから帰る」とちがう道を指差します。ジュースの自販機のある道です。「ア、オジイちゃん喉がカラカラ」とねだります。ママのときは「ダメ帰ってからね」と言われるようで、ちゃんと使っています。

こんな元気で明るい孫が、急に元気がなくなり幼稚園に行きたくないと泣くようになりました。ママが聞いても何も言わず、理由がわからないとのこと。そこでオジイちゃんが泣く孫を抱っこして、バス停までの道すがら聞いてみることに。

孫はチョウツガイ

最近長い髪をショートにしたら一層可愛く、本人も喜んでいましたが、幼稚園の友だちから「ワァー可愛いね、男の子みたい」と言われたことが原因のようです。自分は「可愛い女の子」と思っていたのに、男の子みた

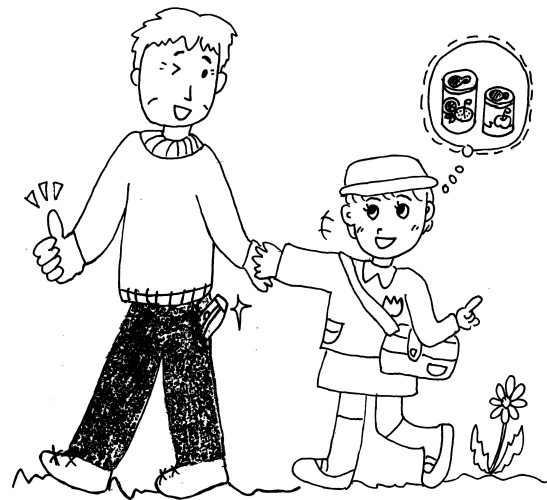
いと言われてたいへんショックを受け、幼稚園にも行きたくなくなったようでした。このママにも言えない悩みが、オジイちゃんには心開いて話ができる。オジイちゃんオバアちゃんとは孫は、親子とはまたちがった関係があるのかもしれない。

「子はカスガイ」と言います。がっちり固定させるカスガイだけでは家は建たず、自由に開閉できるチョウツガイも必要なのだと思います。まさに「孫は親子孫三代の和みのチョウツガイ」なのかもしれません。

二男への贈り物

私の育児はどうであったのか。仕事仕事で家には寝に帰るだけ、育児はほとんど妻任せ。入学式、運動会、発表会、卒業式にも行ったことがなく、父親と子どもの絆は何一つなかった気がします。二男が2歳のときから単身赴任をしたので、子どもと接触する機会はなく、時に家に帰って名前を呼んでも二男はドアの陰に隠れてなかなか出てきませんでした。きつと、今まで家にいなかった男の人がいる、一体あの人は誰なのだろうと不思議に思っていたのでした。

今では二人の子の父親になった二男ですが、顔を見るたびに当時の何とも言えない寂しい表情が目に見えます。家族の絆は一度途切れてしまうと修復するのに大変な



努力と時間がかかる痛感しています。今、毎日している孫の送り迎えは、二男へのせめてもの父親としてできなかった贈り物かもしれません。

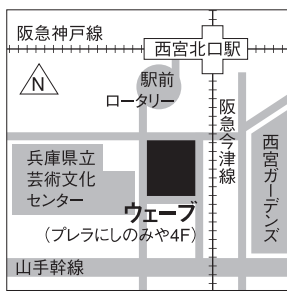
今の時代では、夫の協力も得られず、相談相手もなく、母親一人で子育てはできないと思います。しかし、二男の状況を見ると、新幹線はスピードを増し東京出張は日帰りに、パソコンの普及で家に帰ってからも仕事のチェックと、私の現役時代以上に仕事仕事の毎日です。

もし、二男に孫ができることがあったなら、今の私をどう思っているのかを聞きたいものです。

※チョウツガイ：扉や箱のふたなどの開閉のために用いる金具

編集後記 ○メンバー全員で2年間の総決算ができたようで、ホッとしたいような寂しいような...これからは新しいことに挑戦し続けたい!!(かつみ)○長いようで短い2年間でした。いろんな人に出会い議論したのがとても楽しかったです。ありがとう。(TANGO)○深く考え、色々議論し、楽しい2年間でした。最後までみんなでやり遂げてよかった。出逢えたご縁にも感謝しています。(イブかなこ)○四苦八苦しなながら、ナントカ2年の任期を無事終えることが出来た。ひとえに委員の皆様のおかげです。(内田)○子はカスガイ、孫はチョウツガイ、夫婦は?スジカイかな!立派な家でも自分はロウガイと言われたいになりたい。(NMB68) ■ネットワーク委員とは:西宮市男女共同参画センター ウェーブを拠点に市民参画の事業を推進することを目的に公募で選ばれた市民(任期2年)。現在の第6期委員は主に情報誌の編集・発行をしている。■ウェーブ(WAVE)の意味:「男女がともに行動し、活気に満ちた平等社会をめざす」ことを意味する言葉(With/Act/Vitality/Equality)の頭文字と、男女共同参画社会の実現に向けて大きな波(うねり)をつくっていくこと、という思いがこめられています。

ウェーブは、男女共同参画社会の実現をめざす施設です。性別、年齢、国籍にかかわらず、ご利用いただけます。
○開館時間 1月4日~12月28日/9:00~22:00
○受付時間 月~土曜日(年末年始、休日除く)/9:00~17:15
WAVE PRESS Vol.15
●発行日 2013年3月29日
●編集・発行 西宮市男女共同参画センター ウェーブネットワーク委員会 〒663-8204 西宮市高松町4番8号 プレラにしのみや4階
Tel. 0798-64-9495
Fax. 0798-64-9496
http://www.nishi.or.jp/homepage/wave/



漫画に教えられ 鍛えられ 悩まされ

あなたの ヒロイン、ヒーローはだれ?



「BASARA」全27巻
田村由美/小学館/1991
か弱き少女(?)と自覚していたサラサは殺された兄の代りにその衣装をまとい、圧政に苦しむ仲間とともに王制に立ち向かう。少年漫画が独占していた架空戦記のジャンルに登場したヒロイン。民主主義のプロセスも堪能できる超大作。

「ラヴァーズ・キス」

吉田秋生/小学館/1999
鎌倉を背景にした高校生の群像。他人や身内との境界線に悩みながら明日へとつなぐ思い。全編に流れる詩のようなセリフが美しく、同性同士の恋心が自然に描かれている。登場人物がちがう短編で、再び異なる角度から描かれる手法も斬新。



「リアル」

井上雄彦/集英社/2001
「スラムダンク」で人気を博した作者が「車いすバスケットボール」を題材に1年に1冊、刊行している。中心に描かれる3人の若者は、バイク事故の加害者、盗んだ自転車で交通事故をおこし脊髄損傷し下半身不随、骨肉腫により足の切断、というリアル。そのリアルの「もがき」を丁寧に、冷徹に熱く描いている。だれもが自分のリアルから逃れることはできないのだ。



「秋日子かく語りき」

大島弓子/角川書店/2003
事故死した56歳の電子は、神様の使いに生き返らせてと頼むが断られる。人生にまだ満足していないと必死で訴える電子に1週間だけ体を貸すことにした高校生の秋日子。56歳の主婦が突如、女子高生になって最期を満喫する。



それはできませぬ。歩くスプラッター人間になってしまいます(秋日子かく語りき)



「リバーズエッジ」
岡崎京子/宝島社/2000
90年代に生きた高校生たちの心の深淵を描く。自分たちの生活はそんなにもドラマチックじゃない一方、死と性と暴力はいつもそばに潜んでいた。毎日学校へ行き友だちと会話をする。そんな現実感のない現実に戸惑う自分を思い出す。読後の喪失感が何とも言えない。

しようがない、好きになつてしまったから(ラヴァーズ・キス)

あたし達は何かを隠すためにお喋りをしてた。ずつと何かを言わないで済ますために(リバーズエッジ)

「Sunny」

松本大洋/小学館/2011
さまざまな事情で親と離れて暮らす子どもたちの「星の子学園」。庭には廃車のサニーが放置されている。子どもたちの避難場所だ。親の迎えを信じて待つ子どもたちひとり一人が、従来の子どもらしさを見出し、魅力的に描かれている。シロとクロ(鉄コン筋クリート)やベコとスマイル(ピンポン)などスピード感あふれる少年たちを描いてきた作者が少女にも焦点を当てているのも特筆すべき。



会いたいのとおんなじくらい会いたいな(Sunny)

わたしの「キャンディ・キャンディ」—昔大好き、今は?

ソバカス鼻ベチャの孤児院育ちの女の子。いつも逆境に負けず運命を切り開いていく。何かのため、誰かのために、風習や規範を平気で破る「女ターザン」。希望を胸にいつも笑って生きるキャンディ。その天真爛漫と女の子らしからぬ行動力が少女たちの心をつかんでいた。不幸せな境遇のキャンディが困難を乗り越える姿に声援を送り、彼女を邪魔する人たちに反感を抱いていた、小学生の私。なのに、読み返してみるとイラっとする。なぜ? 大人になった私は、破天荒な彼女に「そりゃあかんやろ!」とチャチャを入れ、究極のおせっかいにイラっとする。しかも男にモテすぎるので腹が立つ。現実の世界では、健気さんてただ地味なだけ、彼女のように周りの男性たちの心をわしずかみになてできない。そう、人生は自分の気持ちにまっすぐ生きてだけじゃ、うまくいかないのだ。と、気付いても、また読み返してしまう。なぜ?

1975年から1979年に少女漫画雑誌「なかよし」に連載され、一大ブームを巻き起こした少女漫画。20世紀はじめのアメリカ合衆国、孤児院育ちでおとなげな少女キャンディは6歳のときに出会った「王子様」にまた逢えることを夢見る。12歳で、裕福なラガン家の娘の話し相手として引き取られるが、運命のいたずらか、大富豪の養女になる。その後、初恋の人の突然死、イギリスに留学し出会う友だち、恋人、そして別れ。看護師を目指し、逆境を乗り越え、最後に「王子様」と再会する。



INTERVIEW



ひこ・田中 (ひこ たなか)

児童文学作家
1990年「お引越し」第1回樟鳩十児童文学賞受賞、1997年「ごめん」第44回産経児童出版文化賞JR賞受賞、ともに映画化された。「児童文学書評」主宰。
著書に「レッツとネコさん」「レッツのふみだい」「レッツのはじめてのおつかい」(そうえん社)、「大人のための児童文学講座」(徳間書店)、「ふしぎなふしぎな子どもの物語 なぜ成長を描かなくなったのか?」(光文社新書)など多数。

「ジャイ子と静香の物語」

●魔法少女の話から

『ふしぎなふしぎな子どもの物語』という本で書きましたが、少女アニメは『魔法使いサリー』(横山光輝 1966年)から始まります。これのヒットにより今日の魔法少女というジャンルができますが、今では女の子向けより思春期以降の男子向けの方が多く作られています。それは、最初の頃の少女アニメの作り手たちがみんな男だったので、彼らが、女の子はきつこうであろう、こうであって欲しい、こうであるべきだと考えた物語を作ったからなのです。子ども向けですから性的欲望を喚起するには作られてはいませんが、主人公の年齢を男の性的対象になり得る高さに引き上げれば、男の子向けアニメになる要素を含んでいます。『美少女戦士セーラームーン』(武内直子 1992年)は女性作家による初めての魔法少女物で、女の子の欲望に沿った物語ですが主人公たちが中学生であり、変身シーンがレオタード、戦闘服が超ミニスカであったこともあり、男のファンも得ます。

女の子の欲望に沿いながら、その欲望そのもの(きれいになりたい、スタイルを良くしたい、強い男に支えられたい)が簡単に男の物語として読み替えられてしまうわけです。

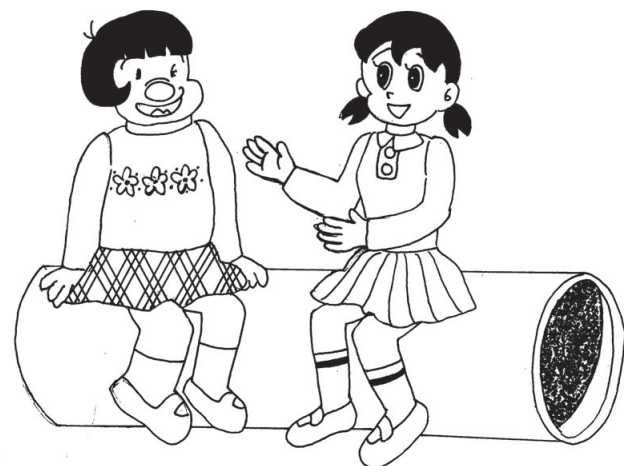
●男の子の目線で男の子の欲望に即して作られている「ドラえもん」

『ドラえもん』(1969年～1996年)は、子どもの欲望を解放した物語として重要な作品です。未来から来たドラえもんは四次元ポケットから「ひみつの道具」を取り出し、ちょっぴりドジで冴えないのび太の願いを次々と叶えてくれます。努力なしで欲しいものを手に入れる姿は、努力の積み重ねこそが大切だと考える大人の眉をひそめさせることでしょう。しかし、こうした物語によって子どもの疲れた心は癒されるのです。世界中の子どもたちが拍手を持って迎えたのは故なきことではありません。

ヒロインの重責



子どものころに出会った憧れのヒロイン、ヒーロー、
できることなら一生お慕い続けていたいものです。
が、大人になってしまった私たち。
なんだか、ヒロイン、ヒーローの別の顔が見えてしまうのでした…。



とはいえ、この作品が男の子目線で描かれているのも事実です。物語の中心は、あくまでのび太と彼の友人のジャイアン、スネ夫です。凡庸な主人公と、体育会系男子と文化系男子の組み合わせ。そしてマドンナが静香。彼女は理想の少女として配置されます。それに対するキャラクターがジャイアンの妹ジャイ子です。二人は可愛いかわ可愛くないかで分けられています。男は体育会系か文化系で分け、女は容姿で分ける。もちろん、女だって男をカッコよさで判断していますからそれ自身が悪いわけではありませんが、そこが主たる価値基準として描かれると、子ども読者が、女は容姿でナンボなのだと思える可能性は高いでしょう。

また、男の目線で描かれた物語は女の子読者を置き去りにもします。静香のシャワーシーンを男の子は喜びますが、女の子はどうすればいいのでしょうか?

●物語は読者とコラボレーションする

静香は男の子みんなの理想像であり続ける運命を背負わされていますので成長させてはもらえません。ところがジャイ子は積極的に自

己表現し、漫画家をめざして研鑽し、自分の欲望に忠実です。彼女は男の目線から外れた場所に放置されていますから、男は彼女の変化を気にしないのです。

成長できないけどモテモテ。モテないけど成長できる。この二者択一は女が置かれたおなじみの理不尽な選択肢です。

物語は現実を反映することには成立しませんから、このような女の子の描き分けもまた、この国のジェンダーバイアスをトレスしています。

一方、物語は現実を反映しながらその半歩先(『ドラえもん』の場合は子どもの欲望を解放)を描こうとするのもまた確かです。ジェンダーバイアスを知った私のような書き手は、そのことを意識して書かざるを得ません。新作『ひつつきむし』*では、「イクメン」などを前に出さずに、さりげなく一緒に育児をしている両親や、強いお姫さまに憧れている少女を登場させていますが、要するに私には静香やジャイ子を描く方が難しいのです。

静香のシャワーシーンや、彼女とジャイ子が容姿で価値を計られることに対して、子どもの頃に違和感を持たなかった女の子も大きくなれば気づくかもしれません。そのとき『ドラえもん』は、ジェンダーを考えるための重要な資料となるはず。そして、私のようにそのことを意識して生きようになるでしょう。

物語は作り手だけで完成するのではなく、読者とのコラボレーションで様々な顔を見せます。今『ドラえもん』を夢中で読んでいる我が子と感想を交換してみるのも、物語との豊かな付き合い方だと思います。

『ドラえもん』の登場人物たちの20年後という設定で作られた車のCMがありますが、静香はのび太が免許を取るのをずっと待っている女として描かれ、ジャイ子は現代絵画の個展を開いています(車も自分で運転しています)。この二人のどちらにも魅力を感じるのか? 自分自身に問いかけてみるのはいかがでしょうか。



■「ひつつきむし」 ひこ・田中作／堀川理万子絵／WAVA出版／2013

ゴジラの変遷

—恐怖の象徴
「核の落とし子」が子どもたちの
ヒーローへ大変身



ゴジラとは、1954年に公開された特撮怪獣映画に登場する架空の怪獣である。同年ビキニ島の核実験による「第五福竜丸事件」*をきっかけに製作されて以降、28作品が公開されている。

容姿はティラノサウルスの背中にステゴサウルスの背びれを付けたとされているが、全体はイグアノドンで頭部のみティラノサウルス説もある。表皮の質感はワニをベースに敵のあるゴツゴツ状。必殺技は作品によって威力は異なるが、背びれを光らせた後に口から放射能熱線を吐き出し焼き尽くす。

第1作「水爆大怪獣映画 ゴジラ」は、人間が生み出した核兵器によって出現した身長50mの怪獣が人間によって葬られる、原水爆の恐怖と人間のエゴを表現した作品だった。観客動員数961万人を記録し、大成功を収めた。翌55年には続編「ゴジラの逆襲」、62年第3作「キングコング対ゴジラ」は観客動員数1255万人とシリーズ最高記録に達し、日本国外でも上映され、大ヒットした。

その後は子ども向け娯楽作品へとシフトし、64年第5作「三大怪獣 地球最大の決戦」では、ゴジラは人類の味方になっている。73年第13作「ゴジラ対メガロ」では観客動員数が100万人を割り、巨額の予算がかかる怪獣映画は1975年第15作「メカゴジラの逆襲」をもって一旦終了する。

そして84年、第16作「ゴジラ」では、第1作の続編として、ゴジラは恐怖の対象として描かれた。以降1995年公開の第22作「ゴジラVSデストロイア」まで、高齢化した当時のゴジラファンをターゲットにした。が、観客の多数は子どもだったため、シンプルな娯楽映画に再びシフトしていった。新たに子どものファン層を獲得したことで、大手児童誌に漫画が掲載され、少年漫画雑誌の表紙を飾ったこともある。

初代ゴジラは、当時人々が抱いていた原水爆に対する恐怖心とは切り離せない存在である。しかし、1960年代に入り、核のイメージは原水爆と不可分なものから“原子力平和利用”へと変化していった。原水爆の恐怖の記憶の衰退とともにゴジラは可愛く変容し、“善玉”になったのである。

*1954年3月1日、アメリカ軍の水素爆弾実験「キャッセル作戦」に巻き込まれ、遠洋マグロ漁船「第五福竜丸」(船員23人)は被爆した。米国が設定した危険水域で操業していたにもかかわらず危険を察知し脱出したが、数時間に渡って多量の放射性降下物を浴び続けた。半年後に、無線長(当時40歳)が「原水爆による犠牲者は、私で最後にして欲しい」と遺言して亡くなり、日本で反核運動が始まる動機になった。

※参考:ウィキペディア「ゴジラ」「ゴジラ(架空の怪獣)」